

## 第1回 医療クラスター形成会議 議事概要

➤ 日 時：平成26年5月28日（水）14:00～15:13

➤ 場 所：コングレコンペーションセンター

➤ 出席者

<センター以外（委員）>

- ① 大阪府商工労働部成長産業振興室長 三枝氏（大阪府知事代理）
  - ② 吹田市長 井上氏
  - ③ 摂津市長 森山氏
  - ④ UR西日本支社長 大西氏
  - ⑤ 関西経済連合会理事 阿部氏（関西経済連合会会長代理）
  - ⑥ 関西経済同友会常任幹事・事務局長 齊藤氏（関西経済同友会代表幹事代理）
  - ⑦ 大阪商工会議所専務理事 灘本氏（大阪商工会議所会頭代理）
  - ⑧ 吹田商工会議所会頭 寺西氏
  - ⑨ 日本製薬工業協会専務理事 川原氏（日本製薬工業協会会長代理）
  - ⑩ 日本医療機器産業連合会産業政策会議議長 三澤氏（日本医療機器産業連合会会長代理）
  - ⑪ 大阪大学副学長 金倉氏
  - ⑫ 京都大学大学院医学研究科教授 木村氏（京都大学理事代理）
  - ⑬ 医薬基盤研究所理事長 米田氏
  - ⑭ 経済産業省近畿経済産業局地域経済部長 高畠氏
  - ⑮ 国土交通省近畿地方整備局建政部長 植田氏
- ※ 厚生労働省医政局国立病院課長 古川氏は欠席

<センター>

座長：橋本総長、事務局：三石企画戦略局長、山本先進医療・治験推進部長、山本総務部長、外村財務経理部長 他

➤ 議事概要

○橋本総長挨拶

国立循環器病研究センター理事長・総長の橋本です。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。皆様のご理解・ご協力を得まして、ここに第1回医療クラスター形成会議を開くことができました。改めて感謝申し上げます。

国立循環器病研究センターは1977年（昭和52年）に第2番目のナショナルセンターとして大阪北摂の地に誕生いたしました。色々なものが東京に一極集中する中で、心臓病・脳卒中等の先端医療を行い開発するセンターを関西にもってきたということは、その後の医療の発展をみたときに実に賢明な選択であったと思います。また、循環器医療の均てん化という面では、今も多くの人材を輩出しており、そういう面でも極めて大きな功績を果たしてきていると思っております。

しかし、国立循環器病研究センターが設立されて37年、建物が古くなっただけではなく、日

本の最先端医療を担っていくという視点から建替が必要と考えております。すなわち、如何に産官学の連携を図り、その上に最先端医療の開発・普及等を行っていくかということが重要であり、そのような視点でセンターの建替を検討してまいりました。

医療イノベーションという視点、さらにはそれを地域活性化につなげるといった総合的な視点で考えるべきということで、多くの議論を経て昨年6月に吹田操車場跡地に移転・建替を決定いたしました。

単に建物の移転・建替ではなく、皆様のご理解、ご協力、そして、設置母体の違う組織と如何に協力しながら新しい医療を築いていけるかということが極めて大事だと思っております。

本日は皆様の忌憚のないご意見を大所高所からいただいた上で、我々がどうあるべきかを考え、皆様とさらに議論をする中で、あるべき姿を求めていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いたします。

○議題1 「医療クラスター形成会議の設置（案）について」

- ・三石局長より資料1の説明
- ・医療クラスター形成会議の設置（案）については、原案のとおりで了承

○議題2 「医療クラスター形成に関する基本的な考え方（案）等について」

- ・橋本総長より参考資料1～3及び資料2の概要版を説明  
(資料2の概要版の説明概要)

国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に関する基本的な考え方について簡単にご説明いたします。

基本的理念については、まず、センターのミッションである循環器病の予防と制圧があります。安倍内閣の成長戦略でも、予防ということに非常に重点が置かれています。医療技術を開発しても、それを開発するだけでは患者の数は減らず、医療費はどんどん増えていきます。また、国民の健康と幸せという点を考えれば、予防ということが大事になりますので、予防ということに重点を置いてやっていきたいと思っておりますが、そういう研究あるいは情報収集というものは地域と密着してやらなければできませんので、吹田市、摂津市のご協力を得て、やっていきたいと考えております。それが市民のためとなり、その中から新しいものを発見し広めていくことができます。

次に、循環器病研究センターのもう一つのミッションである先端医療・医療技術の開発というものがあります。これは医療機器開発あるいは創薬ということだけではなく、医療の方法そのものの開発も含まれます。この分野で世界をリードしていくためには、大学、研究所、企業、行政との連携が大事になりますので、オープンイノベーションということを第二の理念として考えております。オープンイノベーションについては、産官学の集積によって、複合医療産業拠点というものを創る必要がありますが、皆様方からご意見、ご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。この中で特に留意すべき事項として、今回の移転については、単にセンター一つが移転するというのではなく、医療の将来を考えたときに、これは国家プロジェクトであるという視点で中央省庁、経済界、アカデミアといった幅広い支援が得られるものにする、また、地元の住民、医療関係者等からのご理解と積極的な参加が必須ですので、それを念頭にやっていきたいと考えています。そのような複合的なことをやる上では、国立循環器病研究センター、地元自治体、UR等における役割分担を明確にしておく必要がありますので、こういう会議の場

を通じてしっかり方向付けをしていきたいと考えております。

医療形成クラスターを形成すると申し上げましたが、世界的にみれば関西全体が医療クラスターであります。我々はあくまでも循環器疾患分野に関する機能を集積させるということを考えております。即ち、関西全体の医療クラスターの中で、循環器に特化した部分を我々が担当し、そこを突出したものにしていけることが、ひいては関西全体の医療産業集積の底上げやネットワーク強化につながると考えています。

具体的な事項ですが、基本理念の第一、循環器病の予防と制圧に関しては、健康寿命の延伸を目指した予防医療の取組、これは単なる寿命ではなく健康寿命を如何に延伸するかということが極めて大きな問題になります。今日、お集まりの組織体の方々と一緒にやっていくことで、日本のモデルになるような健康寿命の延伸のまちづくりができると考えておりますし、是非、そうすべきと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それ以外では、先ほど申し上げた最先端医療・医療技術の開発・普及への取組です。これはセンターで既にやっていることに加えて、バイオバンクやコホート研究・疾患登録等、膨大な医療情報いわゆるビッグデータの取り扱いが重要となってきます。循環器疾患の患者登録については、これまで別組織に蓄積されていたデータを循環器病研究センターに持つことになりましたし、脳卒中についても別のところでやっていたものを循環器病研究センターで管理することになりました。新たに統合情報センターを循環器病研究センターにつくり、そこで一括管理することになりました。これらを活用して予防医学に結びつくものを提案・提示していきたいと考えております。

次に、オープンイノベーションについてですが、これは異なった組織体と一緒にやっていくということですので、そういう産官学の連携を如何に展開するかということにかかってきます。

簡単ですが、以上が医療クラスター形成に関する基本的な考え方です。

- ・続いて三石局長より資料2及び参考資料4～8を説明

#### ○議題3「各委員からの意見等について」

- ①大阪府：三枝室長 国循を核とした医療クラスター形成は、大阪全体が今回指定を受けた国家戦略特区における医療分野の重要な提案の一つとなっており、国家戦略特区が目標としている我が国産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点形成の実現に資するものと確信している。画期的な医療クラスターの形成に向けて、地区全体のまちづくりの観点から、地元市における取り組みが益々重要になってくると考えている。大阪府としても具体化に向けた取組が円滑に進むよう、関係機関と連携しながら必要な支援・協力をさせていただく。
- ②吹田市：井上市長 吹田操車場跡地に移転していただけることに、まず感謝申し上げます。昨年6月に政府において日本再興戦略が出されており、健康寿命の延伸に係る分野において、市場規模を現在の16兆円から37兆円にするという目標を掲げている。吹田市としても、この一助を担うべく正雀下水処理場跡地には医療の研究機関や関係企業を誘致し、我が国を代表する国際級の医療クラスター形成を共に目指していきたい。また、このまちの強みを生かした医療政策を進めるといったソフト面の環境整備も重要と考える。この観点から、吹田市では「健康医療のまちづくり基本方針」を本年5月19日に策定したところであり、今後、この基本方針に基づいた関係会議を通じて、市民の健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者の生きがいづくりや地域の活性化を進め、循環器病予防の象徴と呼ばれるまちづくりとして「吹田モデル」を発信していきたい。

市単独でできることは限られており、産官学が連携して推進することが必要。様々な資源、施策の投入をお願いしたい。

- ③摂津市：森山市長 吹田・摂津のみならず、北摂全体、大阪から世界に発信できる大きなまちづくりにつながっていくと思う。摂津市としては、これまでも取り組んできた予防医療について、引き続き国循のご協力を得ながら取り組んでいきたい。21世紀のキーワードは、安全・安心・健康づくりだと思う。移転予定地の隣には防災公園ができることになり、このキーワードに合致するようなまちづくりを目指したい。
- ④UR：大西支社長 4街区の商業施設をどういう施設にするのか、また、その施設を建設・運営する業者をどういう条件で募集するのかについて相談をさせていただいている。さらに、7街区の都市型居住ゾーン3haは、URと摂津市の両方で持っている土地であり、この土地は地区計画で住宅用地ということで決まっている。よって国循、市民病院を中心とした健康医療のまちづくりに資するような住宅地としたい。さらには、国循からその一部について土地を譲り受けたいという申し出もいただいているので、可能な限り、どのような形でご協力できるかということを含め、今後、ご相談をしていきたいし、住宅についても、ここがモデルとなるような、例えば、健康のためにはこういう住宅もあるといわれるような住宅が実現できるような形で民間事業者を募集していきたい。
- ⑤関経連：阿部理事 この医療クラスター形成は、経済界としても大きな期待をしているところ。特に、今般の国家戦略特区の中には医療に加えて都市再生・まちづくりがあるが、まさに、医療とまちづくりを組み合わせた特区のプロジェクトとして推進されることに、大きな期待を持っている。広域の経済団体としては、関西全体を医療クラスターとして、この地域は循環器という風に、この機会に各クラスターの特徴付けのようなものがなされ、関西全体の医療クラスター機能が広がっていけばと思う。一点だけ、難しいと思うのは、色んなオープンイノベーション構想があるが、中々、口で言うほど簡単ではないと認識している。この操車場跡地もどうやってオープンイノベーションにしていくのかというのは難しい問題もあると思うが、経済界としては、ご協力できるところは協力して参りたい。
- ⑥関経同：齊藤常任幹事・事務局長 世界にリードする存在になるという固い決意を述べていただいたところで、大変、頼もしく思っている。どうせ、つくるなら世界一、そういう施設であったり、研究施設であって欲しいと思う。一つお願いであるが、基本的な考え方の中の「他の地域との役割機能分担を明確にしつつ」の部分について、まさに、ここが大切なことではないかと思う。是非、役割分担をして、ダブりのないように、また、それを担保するような、例えば、オール関西で話し合いをし補完し合うような仕組みを関係者で持っていたいただきたい。
- ⑦大阪商工：灘本専務理事 国循を核とした医療クラスター形成は、大阪の活性化のために非常に重要な大きな事業だと認識している。私どもも大阪府下にメディカルポリスを建設しようというようなビジョンを主張してきたところで、それに合致する事業内容であり、評価をさせていただいている。大阪商工会議所としては、創薬のDSANJ（Drug Seeds Alliance Network Japan／創薬シーズ・基盤技術アライアンスネットワーク）や医療機器のオープンイノベーションのプラットフォームホーム事業である次世代医療システム産業化フォーラムをやっており、これまで国循とも連携してやってきたところで、この連携を強化していきたい。また、アクセスの利便性は重要であるので、鉄道・道路の利便性について、関係者が協力し、特にJRの快速が停まるようになればいい

と思う。

- ⑧吹田商工：寺西会頭 吹田と摂津の商工会議所の代表として出席させていただいている。産業界としては企業の進出はありがたい。私自身、予防医療に非常に興味を持っている。吹田市と摂津市が市民を巻き込み、まとまっていけば、国内や世界に発信できる街になると考えている。
- ⑨製薬協：川原理事 クラスター形成ということになると最終的には各社の対応となるが、業界としても、情報は共有して対応していきたい。新しいものをつくるとなると、知識集約が非常に大事になる。また、新しいものがつくれるかどうかは、グローバルな競争ということになるので厳しい面も出てくるとは思うが、製薬協としても関心をもって、このプロジェクトを応援していきたい。
- ⑩医機連：三澤議長 クラスター構想については、日本初の新しい医療機器、これを迅速に国民に届けるということで、非常に期待をしている。是非、真の医工連携というものを実現していただきたい。これからの運営課題になると思うが、昨今、倫理の問題もあり企業の技術者が現場に近づくのが難しくなっている。そういう中で、医療機器は薬と違いベッドサイドで開発をするもので、いわゆる技術者の専門性とかドクターの専門性とかをベッドサイドで交えて一緒に開発するというのが理想の姿だと思う。是非、今回の構想の中でそれが実現できるように、そして、信頼性・透明性を兼ね備えたクラスター形成を行って、全国の手本になるようにしていただければと思っている。
- ⑪阪大：金倉副学長 国循とは従来より連携し、この地区における質の高い医療を実践してきたところであり、吹田市民病院とは、地域医療として連携しながら、地域の医療を担ってきた。やはり国循ならではのミッション、循環器病の予防と制圧ということで、今後、阪大病院としても成果を期待している。今後とも継続的に会話をしながら、どのような連携ができるかということを考えていきたい。
- ⑫京大：木村教授 京大としても是非このプロジェクトに協力、また、積極的に参画させていただきたいと考えている。一方で今後、どうあるべきかについては、国循としての診療や研究は当然のことながら、そこにあるデータセンターとか先端医療の開発センターとかを、どうやって実際身のあるものとして実現させていくかがポイントで、例えば京大にも臨床研究総合センターや先端医療機器開発センターというものもある。それとどのように連携し、また、差別化していくかということが非常に大事だと思う。例えば、NCが行うデータセンターを利用促進できるような形で進めていただきたい。また、オープンイノベーションについては、どういったアウトプット、プロダクトをつくるのかを先に決めて、そのためには何が必要なのかをビジョンで進めていただきたい。
- ⑬基盤研：米田理事長 吹田操車場跡地に国循が移転するということは、そこに核ができると思うので、まちづくりが上手く進むことを期待している。基盤研は来年度から健康栄養研究所と統合されるということで、我々は健康というキーワードを手に入れたと思っている。今後は医薬品と健康というものを上手く合わせた研究なりを進めていきたいと考えており、このコンセプトに合致するようなことができると思っているので、是非、一緒にやらせていただきたい。
- ⑭経産省近畿経済産業局：高島部長 この医療クラスター構想について、近畿経済の活性化という意味からも非常に有望なプロジェクトではないかと考えている。昨年6月に閣議決定された日本再興戦略の中にも健康寿命の延伸やオープンイノベーションによる技術開発といったところが

大きな柱となっており、そういった意味でもこのクラスターは相当貢献できるのではないかと考えている。医療はまだまだ市場が広がっている分野であり、海外の製品も多い中、日本ももっと頑張れる分野だと思っている。例えば、人工心臓にしても、まだ小型化や機能向上に対するニーズが相当、潜在的に存在しており、医療クラスターを一つの拠点として企業や大学の研究室が一つの地域に集まって、身近なところで連携をし機器開発を進めていくということがポイントになると考えており、競争力のあるものができれば、世界に打って出られる。是非この医療クラスターが日本のモデル或いは世界のモデルとして成長が遂げられるよう、近畿経済産業局としても全力で応援していきたい。

⑮国交省近畿地方整備局：植田部長 我々としては、この医療イノベーション拠点の創出を目指したまちづくりという観点で、お手伝いをさせていただきたい。平成26～30年度を目標として社会資本整備総合交付金によって様々な支援をさせていただくということで、現在、事業主体である府や市とお話をさせていただいている。具体的には、アクセス性の向上とか、歩行者が安心して歩ける空間づくり、最先端の医療センターのエントランスに相応しい利便性の高い世界に誇れるまちづくりを目指したい。

- ・橋本総長：貴重なご意見をありがとうございました。本日いただいたご意見を基に、どう対処できるか、対応できるか、或いは提案できるかということを中心にセンターでまとめ、次回にそれをご報告したいと考えています。
- ・三石局長より補足説明 何名かの委員から、オープンイノベーションは口でいうのは簡単だが、現実問題として難しいというお話について、これは既に先行されているクラスターの関係者から伺っても、まさに、その点を強調される方が多かったです。そういう意味でも、今回のクラスター会議でアカデミアの方々、或いは産業界の方々にもご出席いただいておりますので、是非、このような場を通じて、今後、様々な大学との連携或いは企業の誘致というものを地元自治体とも協力して進めていきたいと考えています。また、大学に関しては、阪大・京大とは、昨年夏以来、連携強化の協議会を開催するというので、具体的な研究交流或いは共同研究などについてのご相談をさせていただいているところです。さらに、先般、同志社大学との包括連携協定を締結したところですが、そういった医学部を持っていないような、私立の理工系で実績のあるところと、今後、医工連携という形で様々な包括協定等を推進させていただきたい、そういう中で、一つでも二つでも共同研究の種を見つけ育てていければと考えています。

～ 以上 ～